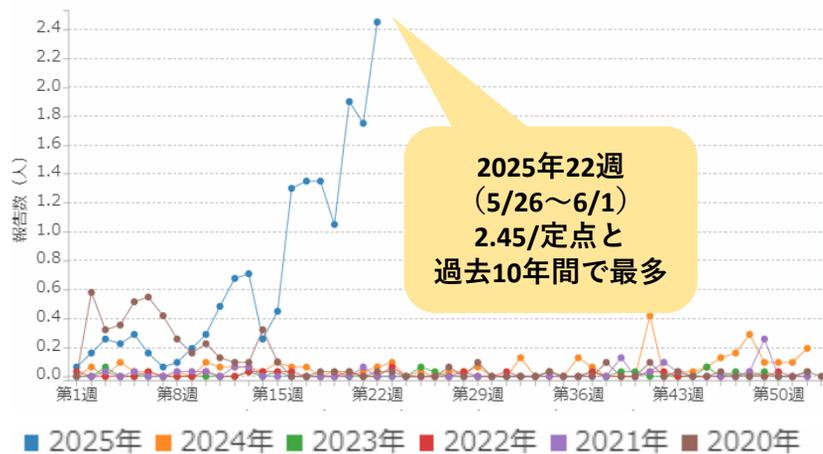


伝染性紅斑（リンゴ病）が増加しています！

◎伝染性紅斑（リンゴ病）とは？

- ・ヒトパルボウイルスB19による子どもを中心に流行する発しん性の感染症です。
- ・両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」とも呼ばれています。



全国的にも流行していますが、神戸市でも、定点あたりの患者数が過去10年で最も多い状況となっています。

参考：神戸市感染症統合情報システム

◎症状は？

- ・微熱やかぜの症状などがみられ、その後に、両頬に蝶の羽のような赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間前後で消失します。中には、長引いたり一度消えた発しんが再出現することもあります。ほとんどは自然に回復します。
- ・多くの場合、頬に発しんが出現する7~10日前にかぜのような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多く、発しんが現れた時には、感染力はほぼ消失しています。

◎感染経路・潜伏期間は？

- ・感染経路：飛沫感染、接触感染
- ・潜伏期間：約10~20日



てをあらおう



マスクをしよう

◎治療・予防は？

- ・特別な治療法はありません。基本的に軽い症状のため経過観察や症状に応じた治療をします。予防接種はありません。
- ・紅斑が出ている時期にはほとんど感染力がないため、かぜ症状のある人はこまめな手洗いや、「咳エチケット」を心がけることが大切です。また、周囲の人も、手洗い、マスク着用などの基本的な感染症対策を心がけましょう

◎妊娠中又は妊娠の可能性のある方は特に注意！

- ・妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や流産のリスクとなる可能性があります。
- ・保育園や学校など周囲で患者が見られた場合は、かぜ症状のある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスク着用などの基本的な感染予防を行ってください。
- ・熱や倦怠感が出現した後に、発しんが出るなど症状がある場合は、医療機関に相談してください。